

第1章 「場の力」の最大化を図る地域づくり

1 目指す姿

世界の宝「富士山」をアイデンティティの源とした一体性のある地域

- ・日本平や三保松原など当地域からの富士山の眺望は、古から「信仰の対象」及び「芸術の源泉」として、多くの来訪者や芸術家に愛され、我が国の文化に影響を与えてきました。
- ・至るところから富士山の様々な姿を仰ぎ見ることができる当地域は、現在も生活の中に富士山が息づいています。
- ・富士山を眺望する聖地「日本平」が中心に位置し、富士山が生活に密着する当地域は、世界の宝「富士山」をアイデンティティの源とした一体性のある地域づくりを進め、国内外の人々を惹きつけ、憧れを呼ぶ「場の力」の最大化を図ることがその地域性に最も適っています。

2 地域づくりを進める視点

- ・当地域の中心「日本平山頂」
- ・陸の玄関口「東静岡」
- ・富士山世界遺産の構成資産「三保松原」

(1) 日本平山頂部を当地域の特別な「場」と捉え、「中心」とする視点

- ・日本の国土のシンボルは富士山であり、富士山は国土の中心に位置します。我が国には、北は北海道から南は九州・沖縄に至るまで、全国津々浦々に「ふるさと富士」が400座以上あります。正に、日本は富士の国であり、富士の国はローカルにしてナショナルな日本のアイデンティティになり得るものです。
- ・霊峰富士を正面に眺望する日本平は、全国の「富士見」ポイントの頂点に立ち、さらに、我が国の国名を戴き、富士山から導き出される多様な価値に立

脚した人づくり・地域づくりを進める最高の「場の力」を備えています。

- ・特に、名勝指定されている日本平をはじめ、富士山世界遺産の構成資産である三保松原、国宝久能山東照宮など、歴史的・文化的資産や、本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」施設が集積するエリアの中心に位置する日本平山頂部は、“ふじのくに”の特別な「場」です。
- ・日本平山頂部を地域づくりの中心に置き、当地域に集積する「学術、文化・芸術、スポーツ」の「場の力」を推進力として、新たな交流と活力を生み出す“ふじのくに”の「文化力」をより一層磨き高め、最大化を図る地域づくりを進めていくことが重要です。

(2) 東静岡を「陸の玄関口」と捉える視点

- ・県と静岡市は、県都静岡にふさわしい新たな拠点を東静岡駅周辺地区に形成するため、グランシップの整備をはじめ、駅前広場や道路、東静岡大橋などの都市基盤整備を進めてきました。駅の南側のグランシップに隣接する県有地、駅の北側の市有地は、南北が一体となった新たな都市拠点として整備することにより、県都静岡の発展に資する効果が期待される貴重な土地です。
- ・東静岡周辺地区は、鉄道や幹線道路等の交通インフラに恵まれ、活発な東西軸の交流を担ってきました。今後、中部横断自動車道の開通により、新たな南北軸の交流の活発化が見込まれる中、東西軸・南北軸の結節点となる、東静岡駅を中心とした地区は、ヒト・モノ・情報の集積する交流拠点となることが期待されます。
- ・東静岡駅周辺に整備を見込む新たな拠点は、この地域の中心をなす日本平山頂部をはじめ、周辺に広がる「学術、文化・芸術、スポーツ」施設へ国内外からの多彩な人々をお招きする「陸の玄関口」としての機能を担うことが求められます。

(3) 三保松原を富士山の普遍的価値を証明する上で不可欠な構成資産と捉える視点

- ・三保松原は、歌川広重の「富士三十六景（駿河三保之松原）」にも描かれるなど、顕著な普遍的意義を持つ図像を生む「芸術の源泉」の展望景観としての重要性を持つ富士山世界遺産構成資産の一つです。
- ・また、16世紀初頭に描かれた「絹本著色富士山曼荼羅図」には、富士山信仰の景観認識が明示されています。三保松原は、富士山への登拝の過程を表す重要な場所として認識されており、こうした認識は、富士山頂登拝が爆発的に増加する18世紀～19世紀前半にも継承されました。その背景には、日本文化に大きな影響を与えた古代中国の神仙思想に基づき、三保松原の白砂青松が蓬莱山とも称された富士山と人間の世界とを結びつける架け橋であるとの

認識がありました。

- 三保松原は、富士山の南西約 45km に位置し、世界の宝である「富士山への架け橋」であり、物理的に離れてはいても、富士山と緊密なつながりを持つ「場」として捉え、確実に後世へ継承していく必要があります。

3 地域づくりのあり方

(1) 「場の力」を高める「面」としての地域づくり

① 「点」から「線」、「線」から「面」への地域づくり

<ポイント>

- 個々の施設の魅力の磨き上げと、施設間連携の強化
- 歴史・文化・神話など地域に根差したストーリーづくり
- 「協働の力」の積極的な活用

- ・当地域には、表1に記載するとおり本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」施設が集積しています。
- ・当地域の「場の力」の最大化を図るためには、個々の施設が持つ魅力を磨き上げるとともに、施設間の連携を強化して当地域に集積する施設が一体となった活動を展開することが重要です。こうした取組により、「点」から「線」、「線」から「面」への広がりを持つ一体性ある地域づくりが可能となります。
- ・当地域は、世界の宝「富士山」をアイデンティティの源とした一体性ある地域を目指し、日本平山頂を当地域の中心とする視点を持って、歴史や文化、神話、豊かな自然などを活かしたストーリー性と回遊性の高い「面」としての魅力の最大化を図ることが重要です。
- ・また、地域づくりに当たっては、その担い手である市民などとの協働を積み重ねるなど、地域のマンパワーを積極的に活用していくことが重要です。

表1 東静岡から日本平、三保松原に集積する施設等と地区の特徴

地区名	集積する施設等	地区の特徴
東静岡駅 周辺地区	J R 東静岡駅（自由通路）、グランシップ	・陸の玄関口
日本平周 辺地区	<p><山頂部>名勝日本平、日本平ホテル、日本平公園</p> <p><山麓部>県立大学、県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財センター、舞台芸術公園、草薙総合運動場、静岡英和学院大学、市立日本平動物園、静岡大学、地球環境史ミュージアム</p> <p><歴史・文化>久能山東照宮、草薙神社、龍華寺、鉄舟寺、「草薙」・「馬走」の地名 など</p>	<p>・富士山を仰ぎ見る特別な「場」である山頂部</p> <p>・文化、学術・芸術施設等が集積する山麓部</p> <p>・歴史・文化あふれる日本平周辺</p>

三保地区	<p><世界遺産構成資産>三保松原、御穂神社、神の道、(仮称)三保松原ビジターセンター</p> <p><教育・協働>東海大学海洋学部、海洋科学博物館、自然史博物館、折戸湾</p>	<p>・世界遺産構成資産</p> <p>・海洋をフィールドとした教育・協働の場</p>
------	---	---

②「点」と「点」をつなぎ「面」に高める公共交通ネットワーク
 ~キーワードとなる「脱車(だつくるま)」~

<ポイント>

<p>○利便性が高く魅力ある公共交通によるネットワーク構築</p> <p>○様々な公共交通の組合せ(バス、ロープウェイ、水上交通など)</p> <p>○歴史、文化のストーリーを辿る公共交通のネットワーク</p>

- ・個々の施設をつなぎ、ストーリー性と回遊性の高い「面」に高めるためには、各施設の連携に加え、利便性が高く魅力的な公共交通によるネットワーク構築が非常に重要です。また、高齢者や子ども、外国人観光客等の受入に当たっては、ユニバーサルデザインに配慮するとともに、環境にやさしい低炭素・循環型社会にふさわしい公共交通による移動の手段「脱車(だつくるま)」がキーワードになると考えられます。
- ・公共交通インフラを導入するに当たっては、移動区間の特徴や需要の見込みに応じて、適切な交通手段を選択する必要があります。
- ・辻馬車やロープウェイ、LRT、バス、水上バス等の利便性が高く魅力ある公共交通の組合せにより、三保松原、日本平、久能山東照宮など、歴史、文化のストーリーを辿りながら回遊できるネットワークを構築することが重要です。
- ・また、辻馬車やロープウェイ、水上バスなどの移動手段は、そのものが観光目的の一つとなり、利用者に非日常的な体験を提供する「場」になるとともに、地域のシンボルとして、高い発信力を発揮します。

表2：地域の一体性を高める公共交通インフラの導入例（イメージ）

想定区間	主な移動手段	特徴・導入イメージ
東静岡ー日本平(山麓)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング ・電動自転車 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動距離が比較的短距離、地形も起伏が少ないため、人力による移動が主体 ・日本平（山麓）に結節点を設け、他の交通機関へ乗り換えることで、日本平（山頂）への移動も可能
東静岡ー日本平(山頂)	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス ・デマンド型交通 ・ロープウェイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関口である東静岡から日本平山頂には、より利便性が高く、多くの人々の移動が可能な交通インフラの導入 ・従来の路線バスに加え、需要特性に合わせたデマンド型交通の導入 ・山麓部に結節点を設け、山麓エリア内の交通機関との乗換を可能にする ・将来的には、東静岡ー日本平動物園ー日本平山頂間のロープウェイ導入検討
日本平山麓エリア内 (草薙駅ー県立大学・ 県立美術館ー日本平 PAー日本平動物園ー静岡 大学ー地球環境史ミ ュージアム)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド型交通 ・辻馬車 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の目的地が連なる日本平山麓部では、目的地をつなぐ交通インフラの導入 ・需要特性に合わせてデマンド型交通の導入 ・日本平山麓エリア内での比較的短距離の移動は、辻馬車等
日本平（山頂）ー三保	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープウェイ ・電動自転車 ・デマンド型交通 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本平山頂から三保へは、富士山を眺望しながら、多くの人々の移動が可能な交通インフラの導入 ・日本平山頂ー旧果樹研究センター間のロープウェイ導入 ・日本平山頂シンボル施設を既存の日本平ロープウェイとの結節点とし、富士山と久能山東照宮とのつながりを深める ・久能山東照宮と久能海岸との移動の利便性向上 ・旧果樹研究センターから三保地区へは電動自転車（自転車道利用）や、久能山もエリアに含むデマンド型交通
三保ー清水ベイエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・水上バス 	<ul style="list-style-type: none"> ・三保半島から清水ベイエリアへは、既存の水上バスの魅力と利便性の向上を図り、両地域のつながりを強化し地域の一体性を高める



(ロープウェイ)



(水上バス)



(デマンド型交通 (バス))



(デマンド型交通 (ワゴン車))



(辻馬車)



(レンタル自転車ステーション)

写真9：様々な公共交通機関の例

※デマンド型交通

デマンド型交通は、路線バスとタクシーの中間的な位置にある交通機関。事前予約により運行するという特徴があり、運行方法や運行ダイヤ、さらには発着地の自由度の組み合わせにより、多様な運行形態が存在。

<参 考>

○東静岡、日本平、三保松原相互間の公共交通によるネットワークの状況

- ・ 東静岡、日本平、三保松原相互間へアクセスする公共交通は、現在路線バスがその役割を担っています。日本平山頂への公共交通は、静岡側・清水側ともに、日本平パークウェイに限定され、東静岡駅から日本平山頂には、平日1日あたり4便、休日1日あたり9便が運行しています。清水側から日本平山頂には、平日の便は無く、休日に清水駅を発着点とする「清水みどころ観光バス」が1日4便運行しています。また、日本平山頂と三保松原は直接アクセスできない状況となっています。
- ・ 当地域に集積しているそれぞれの学術、文化・芸術施設へのバス路線は、主にJR各駅から放射状に設定されており、施設間の連絡性や回遊性をより充実することが求められます。
- ・ 富士山世界遺産登録を契機としたシニア層や外国人観光客の増加、さらには着地型観光の広まり等の観光を取り巻く環境の変化等を踏まえ、今後、東静岡、日本平、三保松原、さらには清水港ウォーターフロントの公共交通による一体性の強化、久能山東照宮や県立美術館、舞台芸術公園、ふじのくに地球環境史ミュージアム等周辺に立地する文化・芸術施設を含めて、回遊性を備えた魅力ある公共交通ネットワークの形成が重要です。

東静岡駅周辺から日本平、三保松原に広がる地域の公共交通(平日)



東静岡駅周辺から日本平、三保松原に広がる地域の公共交通(休日)



図7：東静岡駅周辺から日本平、三保松原に広がる地域の公共交通網

(2)地域の特色や独自性を打ち出した求心力の強化

①交通の利便性を活かした地域づくり

<ポイント>

- 飛躍的に高まる交通利便性を最大限活かした地域づくり
- 県内に加え、国内外から人々を呼び込む求心力の高い地域づくり

- ・本県は、東京と名古屋、大阪の間に立地する地理的優位性を有し、多くの人々が行き交う高い交通利便性に恵まれた地域です。
- ・こうした従来からの優位性に加えて、平成 29 年度には、中部横断自動車道の供用開始や、東名高速道路に（仮称）静岡東スマートインターチェンジが新設される予定です。新たな高規格幹線道路網の整備により、東西軸・南北軸の交流の活発化が図られ、当地域の地理的優位性は飛躍的に高まります。
- ・さらに、平成 39 年度に予定されているリニア中央新幹線（東京－名古屋間）開業に伴い、現在の東海道新幹線は「ひかり」・「こだま」を中心とした新たな運用形態が可能となることから、県内駅へ停車する列車数の増加や、空港と直結する新幹線新駅設置など、交流基盤の一層の強化が期待されます。
- ・また、当地域の東端に位置する清水港ベイエリアは、伊豆と結ぶ全国初の海上県道 223 号の起点であるとともに、近年増加する大型クルーズ船の寄港地でもあります。国内外の来訪者を迎える、海の玄関口である清水港ベイエリアも含めて回遊性を高めることで、陸・海・空の交通利便性を最大限に活かすことが可能となります。
- ・地域の観光地としての魅力を高めるとともに、インターチェンジや駅、港などの交通結節点相互の連結が可能となる魅力的な公共交通等のネットワークを整え、国内外から人々を呼び込む求心力の高い地域づくりを進めることが重要です。

②地域の独自性の打ち出し・アイデンティティの確立

<ポイント>

- 人口減少、地域間競争の中で、自律的、持続的に発展できる独自性ある地域づくり
- 大都市圏にはない静岡らしさ、個性・特徴ある地域づくり
- 日本平山頂に、当地域のアイデンティティの源となる「霊峰富士」を眺望できる象徴的なシンボル施設整備
- 「学術、文化・芸術、スポーツ」の集積地である特長を前面に打ち出した地域づくり

- ・当地域が将来にわたって自律的、持続的に発展していくためには、世界水準の魅力を磨き上げ、地域間競争に打ち勝つことのできる地域づくりを進める必要があります。
- ・古来、富士山と深いつながりのある当地域は、富士山を地域のアイデンティティの源として、大都市圏にはない静岡らしさや、地域に根差した歴史や恵みの磨き上げ、本物の魅力の掘り起こしなど、個性・特徴ある地域づくりに取り組み、地域の一体性を一層高めていくことが重要です。
- ・このため、当地域の中心に位置し、全国の富士見ポイントの頂点に立つ「聖地」日本平山頂に、当地域のアイデンティティの源となる「霊峰富士」を眺望することが出来る象徴的なシンボル施設を整備することが重要です。
- ・また、本県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」の集積地である特長を前面に打ち出した地域づくりを進め、その力が生む若者をはじめとする様々な人々の交流や賑わいを、新たな魅力を創出する原動力とし、より一層地域の求心力を高めていくことが重要です。

(3) 県都静岡にふさわしい地域づくり

① 東静岡と静岡都心、清水都心が相互に連携し活気が出る地域づくり

<ポイント>

○ 東静岡、静岡都心、清水都心が相互に連携して「プラスサム」の効果を生み出す地域づくり

○ 県と市が連携して「場の力」を高める地域づくり

- ・ 東静岡から日本平、三保松原に広がる地域の「陸の玄関口」である東静岡の拠点整備に当たっては、静岡市内の静岡都心、清水都心と相互に連携して県都静岡に「プラスサム」の効果を生み出す地域づくりが重要です。
- ・ そのためには、静岡都心は商業、業務、居住等の多様な機能の強化を図るとともに、回遊性を向上させる取組、清水都心は日の出地区において、工業・物流機能から賑わい・交流機能への転換を図り、「みなと」と「まち」をつなぐ取組、東静岡は新たな賑わいと交流の核となる「文化とスポーツの殿堂」の形成の取組を進めるなど、適切な機能分担の下、それぞれの強みを活かしつつ、都市機能の強化を図る必要があります。
- ・ また、大谷・小鹿地区におけるまちづくりや清水港ウォーターフロント活性化、草薙駅周辺整備などの静岡市が進めるまちづくりと連携し、一体となつて、当地域の「場の力」の最大化を図ることが重要です。

○ 静岡市のまちづくりの動き

(仮称) 東名静岡東スマートインターチェンジ整備事業

- ・ 静岡市では、課題である高速利便性の向上や交通環境の改善、周辺土地利用計画の支援、地域振興の支援による地域の発展・活性化などを目的として、静岡市駿河区宮川地内で、(仮称) 東名静岡東スマートインターチェンジの開設を進めています。
- ・ 平成 25 年 6 月には国土交通省からインターチェンジの設置許可を受け、現在は、静岡市と中日本高速道路(株)が連携し、平成 29 年度末の供用開始を目指し事業を進めています。

大谷・小鹿地区まちづくり計画推進事業

- ・大谷・小鹿地区は、平成 29 年度の東名高速道路新スマートインターチェンジの供用により、道路交通環境の飛躍的な向上が見込まれています。
- ・現状では、大谷・小鹿地区内の多くの土地は農地ですが、農業従事者の高齢化や後継者不足等から、農業環境の悪化が懸念される一方で、新インターチェンジの供用開始により市街化の動きが高まり、無秩序な開発が進む可能性が危惧されています。
- ・このため、静岡市ではこの地区の今後のまちづくりの基本となる考えや方針の検討を進め、平成 24 年度にまちづくりのランドデザインを策定しました。
- ・ランドデザインでは、新インターチェンジによる交通利便性を活かした産業・交流の振興を図ることを土地利用の基本方針とし、目指す導入機能を、交流機能、農業機能、工業機能、物流機能、居住機能としています。
- ・現在は地権者の将来の土地利用意向を踏まえた具体的な土地利用計画や整備手法等の検討を進めています。

清水港ウォーターフロント活性化推進事業

- ・清水港には、「物流機能の立地再編」、「地域観光への関心の高まり」、「大型クルーズ船による海外からの観光客の増加」など、近年の社会環境の動向を踏まえて、「はたらく港」に「楽しむ港」、「もてなす港」の要素も加え、さらに積極的な取組が求められています。
- ・静岡市では、港湾管理者である県と連携し、「みなと」・「まち」全体を視野に入れた清水都心ウォーターフロントの活性化のあるべき姿について、官民関係者からなる検討の機会を設け、その推進・実現方策として、「江尻地区から日の出地区の異なる魅力の拠点を磨き、つなげていく」を重点目標に掲げ、その実現のために必要な取組として、江尻漁港周辺の整備検討、清水港線跡遊歩道の魅力向上、日の出緑地の再整備、日の出埠頭の交流拠点化を検討しています。

草薙駅周辺整備事業

- ・草薙駅施設のバリアフリー化を図るとともに、駅北口地区への市民の利便性向上を目的に、静岡市では、南北自由通路の新設、橋上駅舎化、北口駅前広場やアクセス道路の整備、南口駅前広場の改修などを行う「JR草薙駅周辺整備事業」を実施しています。
- ・駅南口では、老朽化が進む建物の更新や耐震性の向上、駅前空間の整備とともに、周辺に点在する教育・文化施設への玄関口にふさわしい都市環境

の形成を目的として、土地の高度利用を促進し、良好な都市型住宅の誘導、商業・業務機能の集積を進める市街地再開発事業を実施しています。

(仮称) 三保松原ビジターセンター建設事業

- ・ 静岡市では、富士山世界遺産の構成資産「三保松原」に、国内外からの来訪者を迎えるとともに、十分な満足感を与え、三保松原の持つ価値や魅力を発信するために、「(仮称) 三保松原ビジターセンター」の整備を進めています。
- ・ ビジターセンターには、三保松原に関する価値の展示、観光情報発信、松原保全サポートセンターとしての機能を持たせることを検討しています。

②県都静岡の新たな交流の拠点づくり

<ポイント>

○都市機能の向上を図る県有地・市有地の有効活用

- ・ 静岡市の副都心としての整備を図る東静岡駅周辺地区は、土地区画整理事業が進められ、商業、業務、医療、居住などの都市機能の集積が図られつつあります。
- ・ 「文化とスポーツの殿堂」の核となる駅前の県有地及び市有地は、当区域の統一感あるまちづくりの先導的な役割を担うことが期待されます。
- ・ 東静岡駅に近接する非常にポテンシャルが高い土地である南口県有地と北口市有地は、県都静岡の発展の中核となる貴重な土地であるという認識に立つとともに、“ふじのくに” 静岡の文化力の高さを国内外に発信する中心拠点として、また、県都のスポーツの殿堂として、最大限の活用を図る必要があります。

【「場の力」を最大化する地域づくりのあり方】（イメージ）

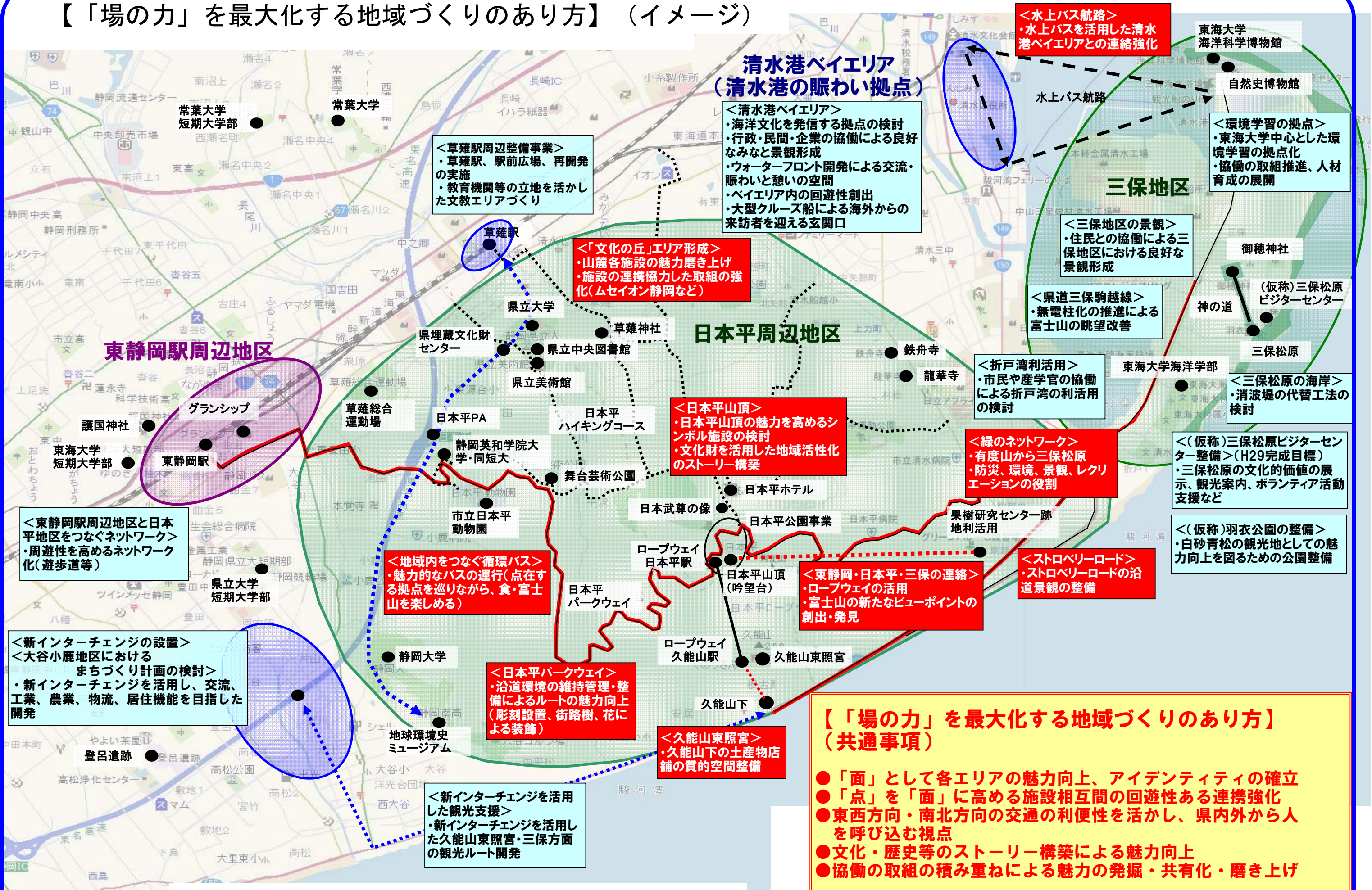


図8：【「場の力」を最大化する地域づくりのあり方】（イメージ）